会議レポート

ICDE2005

2005 年 4 月上旬東京．いつもの年なら疾うに盛りの過ぎている桜が，今年は日本を含め世界各国から訪れたデータ工学国際会議（IEEE International Conference on Data Engineering, ICDE）の参加者を，満開の花を咲かせて出迎えてくれた．ICDE は，ACM SIGMOD，VLDB などと並ぶ，データベース関連の主要な国際会議の 1 つである．今年で 21 回目を迎え，日本では 1991 年に神戸で開催されて以来，今回が 2 度目の開催となる．今回の ICDE2005 は IEEE と情報処理学会，電子情報通信学会，日本データベース学会の共同主催で，東大の喜連川優教授と IBM フェローの R. Agrawal 博士が共同会議委員長を務めた．会場は千代田区一ツ橋の学術総合センター（本会議）と国立情報学研究所（一部ワークショップ）であった．参加者は全体で 825 名，うち海外からの参加者が 356 名と多数であったのが，日本で開催された国際会議としては珍しい．

厳しい競争を勝ち抜いて発表された通常論文 67 件とポスター論文 33 件はどれも最近のこの分野の研究動向を反映した質の高いものであった．分野別に見るとマイニング（データ，テキスト，Web），ストリーム処理，半構造データと XML，問合せ処理と最適化などの発表が多かった．最優秀研究論文に選ばれたのは，"Modeling and Managing Content Changes in Text Database"（ニューヨーク大，カリフォルニア大ロサンゼルス校，コロンビア大）であった．本論文で述べられた研究は，テキストデータベースを検索できるサイト（いわゆる深層 Web）から，そのコンテンツのサマリを作成し，そのサマリの時間変化に注目してモデル化することでその効率的な更新を行えるようにした点に特徴がある．

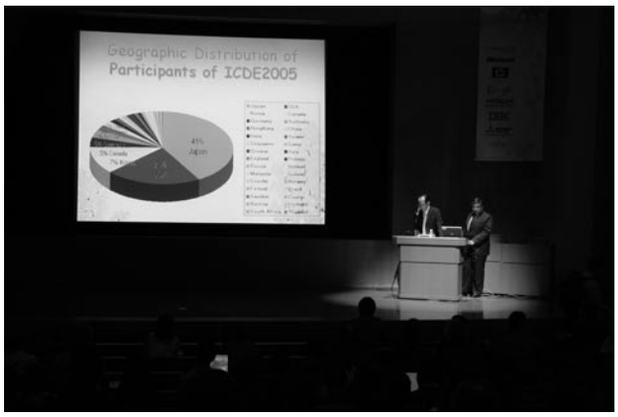

図 -1　ICDE2005 のオープニング

論文発表に加えてビッグネームの基調講演があった．オブジェクト関係データベース Postgres の開発で知られ，今年度の IEEE フォンノイマンメダルを受賞した MIT の M. Stonebraker 教授がデータベースの新しいパラダイム（ストリームなど）について，IBM フェローで研究担当副社長を務め，先駆的な関係データベース System R の開発で知られる P. Selinger 博士が今後のデータ処理の 5 大チャレンジ（挑戦すべき課題）について，そして日立の谷口洋司博士が開発にたずさわったμチップ（IC タグの 1 つ）とその応用についてそれぞれ講演した．

そのほか，2 件のパネル，7 件の先端セミナ，インダストリアル論文セッション，デモセッション，企業展示（20 社にのぼる多くの企業から多大な支援をいただいた）が行われ，どれも大盛況であった．

本会議に加えて 11 件のワークショップが併設された．それぞれバイオメディカル，e コマース，マルチメディア先端応用，実世界マルチメディア，ネットワークとデータベース，プライバシーデータ管理，ユビキタスデータ管理，Web 情報検索と統合，XML スキーマ・データ管理，自律的なデータベースなどがテーマであり，これらも成功裏に終わった．

次世代のデータベースコミュニティを担うのはいうまでもなく学生であり，学生にとって質の高い会議に参加することは大変意義がある．日本で国際会議を開催することの意味の 1 つはそういう点にもある．そのための仕掛けとして学生のためのワークショップ（正式には故上林弥彦京大教授を記念して開催された若手データベース研究者のためのワークショップ）を開催した．それには 51件（日本から43件）の論文発表があった．さらに会議の運営にも学生ボランティアを募り，仕事の空いた時間は興味のある講演を聴講できる機会を設けるようにした．

社交行事の 1 つとして，会場とは場所を変えて，港区白金台の八芳園で開催されたバンケットにも約 400 名の参加者があり，夜桜の下での琴の演奏にはじまり，粋を凝らした食事が続き，余興で行われた和太鼓の演奏では会場が熱狂につつまれた．

今回のICDE2005は日本におけるデータベースコミュニティ（情報処理学会，電子情報通信学会，日本データベース学会）の総力をあげて計画から運営までを行った．2001年4月の開催決定から4年目での開催であり，本格的な準備期間も1年半と長かった．国際会議を主宰する機会の多い複数の参加者から異口同音に『いままで参加してきた国際会議の中で最もよくできた（well-organized）会議である』という評価を聞くことができた．多くの関係者の長きにわたる献身的な努力と多くの参加者のおかげで客観的にも大成功であったと信じる．それぞれの関係者・参加者の心に，さまざまな思い出を残して7日間にわたるICDE2005は無事その幕を閉じた．

なお次回のICDEは2006年4月に米国アトランタで開催の予定である．最後にこの稿を執筆するにあたり，ご協力いただいた皆様に感謝いたします．

（石川　博／首都大学東京）

おふぃすらん

少し前の話になってしまいますが，自宅用にMac miniを購入しました．このMacですが，パソコンとは思えないほど小さく可愛らしく，おかげでパソコンデスクが随分とすっきりしました．うーん，この小さな「お弁当箱」1つで色々なことができるなんて，驚きです．

今はパソコンだけでなく携帯電話やゲーム機，音楽プレーヤなど，どれも機能が増え，しかもコンパクトになって，夢描いていたことがどんどん実現されていくことに改めて感動しています．最近の感動にもう1つ，これは学会で使用したのですが，SkypeなどのTV電話で遠くの人とまるで近くにいるように話ができたこともあります．本当にすごい！

そういえば，初めてパソコンでメールした時のことを思い出します．あの時は送信してすぐに送った友人に電話をして「届いた？」「届いた！」と確認しあったのでした…（ちょっとだけ「？」「！」の世界で一番短い手紙のようです）．これももう遠い昔の出来事のよう．まわりのものは私達が追いつけないくらい，日々進化していきます．

ニュースで報道された愛・地球博で活躍した色々なものたちを見ても，SF映画や小説にいつも出てきて憧れた「ロボット」や「空飛ぶ車」など，もう実現する日も近いのかもしれないなあと思います．けれどそういった未来の物語はどこか物悲しく終わるものが多く，一体どこまで便利になることがよいのか，ということをたまに考えさせられたりもするのですが…．それでも，私たちの見たい，知りたい，話したい，という欲求に答えるべく，日々苦労され新しいものを作り出していく技術者の方々には頭が下がります．きっと，SF映画のような結末を迎えないために必要なのは，その作ったものを正しく使いこなせるようになることなのかな…などと考えたり．といってもまだまだ私自身は使いこなせず悪戦苦闘してたりするのですが…．素敵なものたちに囲まれて楽しいことが増えれば，それは本来とても喜ばしいことです．

この号が出る頃には今年も残りわずかになっています．新しく来る年が素敵に進化したものたちとあたたかく夢のある話題で満ちますように！　皆様どうぞよいお年をお迎えください．

（綿谷亜樹／会誌編集部門）

訂　正

本誌46巻10号（2005年10月号）p.1105の図-1「In-Order/Out-of-Order スーパースカラ・プロセッサのパイプライン図」内に誤りがありました．2つのパイプライン図それぞれにおいて，1つ目と2つ目の命令のr1とr2が逆に記載されていました．お詫びして訂正いたします．